

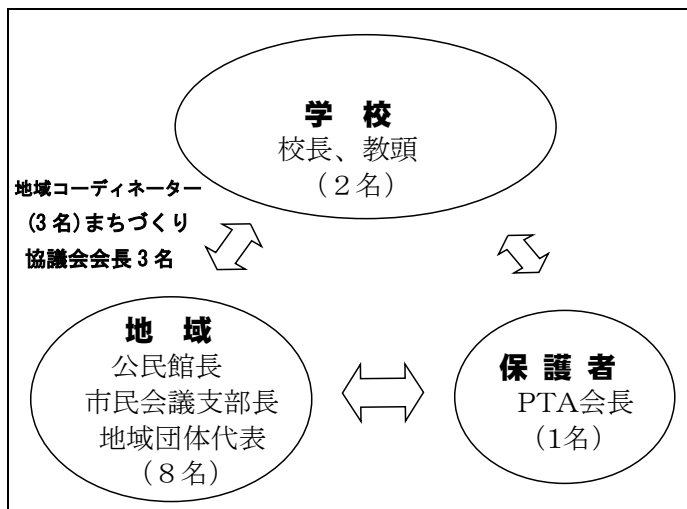
(様式3)

# 令和元年度 福井型コミュニティ・スクール 実施報告書

福井市成和中学校

## 1 「家庭・地域・学校協議会」の運営について

### (1) 「家庭・地域・学校協議会」の構成



### (2) 協議会の内容

- ①開催回数 (3回)
- ②開催日程 (6月、11月、2月)
- ③協議内容
  - ・学校経営基本方針と経過報告
  - ・教育活動の実際と課題
  - ・家庭・地域・学校の協働による生徒の育成
  - ・今年度の成果と課題
  - ・来年度の取組計画
- ④中学校区連絡会 (7月)
  - ・中学校区の教育計画

### (3) 協議会における成果と課題

広く家庭・地域の方々の願いやご意見をいただき、それらを生かした学校経営に心がけ、地域の方々の支援を教育活動に生かすことができました。また、家庭・地域・学校が互いの教育機能を補完し合い、それぞれの教育効果を高めて連携することができました。今後、よりよい地域連携のあり方をさらに模索し、生徒一人一人の可能性を最大限に伸ばしていかなければならない。

## 2 地域と進める体験活動

### (1) 活動のねらい

本校では、学校公開やホームページ・学校便り・学年通信等で情報を発信したり、地域の人材を活用したりして、家庭、地域、学校が互いの教育機能を補完し合い、それぞれの教育機能を高めて連携している。また、これまで以上に子どもたちがボランティアとして地域に出て行くことに力を入れるとともに、地域参画にも挑戦させ、学力向上と学びの広がりを図り、生徒一人一人の可能性を最大限に伸ばすことこそが、夢や希望を育むことになると考え実践している。

### (2) 活動の実際

#### ① 「TEAM SEIWA」ベストを着てのボランティア

今年も、昨年度に引き続き、地域交流活動をする際に、予算で追加作成させていただいた

「TEAM SEIWA」ベスト (現在 60 枚) を必ず着用して、活動にあたらせるようにした。その結果、生徒たちの意識が変わり、チーム成和の一員という自覚をもち、より積極的にボランティアに取り組む生徒が増えた。また、地域の方々の評判も非常に高く、「成和の生徒を



地域で育てていかなければという考えを強くもった」という声を多く聞くことができた。

## ②わくワーク講座

36名の社会人の講師の方をお招きして、自分の生き方について考えるきっかけにしたり、将来の夢や目標をもったりすることをねらいにした「わくワーク講座」を第1学年で開催した。青年会議所「ふくい担い手づくりプロジェクト」のスタッフの方々にもお手伝いいただき、PTA第1学年委員会の協力も得ながら実施した。どの講師の方も、真剣に子供たちに働く意義や喜び、苦労等を語ってくださり、また、子供たちもいろいろな質問をしたり、学習したことを模造紙にまとめたりして、非常に有意義な活動であった。



## (3) 地域コーディネーターの活動概要

- ・各地区の行事や取組の中で、中学生が参加できる内容を精査していただいたり、連絡調整をしていただいたりしている。特に、各地区の様々なボランティアについて、内容を吟味し、学校との調整の窓口役として活躍していただいた。
- ・わくワーク講座や職場体験学習における、講師の選定には毎年苦労するが、今年も地域コーディネーターの方が、様々な業種の方とのパイプ役を務めてくださり、大変助けていただいた。
- ・昨年度から「地域コーディネーター連絡会」を設け、各地区地域コーディネーターの方と、今後の地域参画のより良いあり方について意見交換を行った。特に、ボランティア後の生徒の感想の、より良い情報交換の方法について改善案が出され有意義であった。

## (4) 特に工夫した事項

- ・地域交流活動への参加を、教師主体ではなく、生徒会執行部から呼びかけるようにしたり、部活動ごとに参加を考えさせたりするようにした。
- ・わくワーク講座（地域の担い手づくりプログラム）や職場体験学習では、講師の方を極力、地域の方をお願いするようにした。

## (5) 成果と課題

これらの活動を通して、生徒たちの地域の一員としての自覚や地域への愛着が確実に深まっている。また、本校は「日本一の学校」をめざしている、生徒の自己有用感・自己肯定感の育成が求められている現在、「日本一の学校」をめざす活動の柱の1つとして、これらのボランティア活動に力を入れていくことは大変重要であると考えている。このような活動を通して、社会生活に必要なコミュニケーション能力や人・ものに感謝する心が育まれるとともに、ふるさと福井に誇りを持つことができる子どもに成長すると考えている。

地域交流活動への生徒の参加はのべ800名を超えているが、ただ参加するだけの活動ではなく、自分たちのアイデアを発信させ、地域のためにより深く貢献できる活動へと高めていくことができる生徒の育成を目指していきたいと思う。